

第2学年 図画工作科学習指導案

ろ組 男子17名 女子17名 計34名
指 導 者 濱 崎 昇 平

1 題 材 つなげよう！ゆめの町！

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、自分の行ってみたい夢の町と、友達が表現した夢の町をつなげて大きな町を絵に表す題材である。

この期の子どもたちは、思う存分に手を働かせて楽しみながら、感じたことや想像したことを絵に表そうとする意欲が高まってきている。また、つくりながら形や色を考えたり、様々な表現方法を試したり、次々と発想したりすることができるようになってきている。さらに、友達と交流をしたり、見せ合ったりしたことを表現に生かす喜びや楽しさを味わってきている。

そこで、自分と友達の夢の町をつなげて大きな町を表現することは、友達と楽しく交流しながら自分たちの思いを表現することができるため、楽しい町を表現したいという意欲を高めることができる。また、自分の夢の町と友達の夢の町をつなぐ部分を一緒に想像しながら表現することは、自分と友達の思いやイメージを比べながら形や色の工夫を考えることにつながり、つくりだす力を伸ばしていくことになる。そして、自由にお互いの作品を鑑賞し合い、自分と友達の思いやイメージを交流したり、友達の表現の形や色の工夫に気付いたりすることで感じ取る力を伸ばしていくことにつながる。さらに、自分の思いやイメージに合った形や色になるように、パスの使い方を工夫して適切に扱うことで、知識・理解、技能を高めることができる。

このように、自分と友達の発想を比べながら、形や色を工夫して表現していく活動は、第3学年の「3年〇組 夢の町」で、切り方やつなげ方を工夫してペットボトルでつくった夢の建物を、友達とつなげて、学級全体で夢の町をつくる活動へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱うパスは、色が数種類あり、線の太さや塗り方等を自分なりの表し方で表現できる描画材であるので、自分の表したい思いやイメージに合わせて色を選び、表し方を工夫しながら表現することができる。そのため、子どもたちは、友達と交流したことを基につくりだしたイメージに合わせて、形や色を工夫しながらパスを使って表現したいという意欲をもつことができる。また、本題材で使用する広幅用紙は、子どもたちが発想したことを思う存分に手を働かせて楽しみながら表現することができる広さがあり、新たなイメージをつくりだす意欲をもつことができる。

具体的には、まず、自分の夢の町を表現することに興味をもたせるために、参考作品を鑑賞させ、形や色の様々な工夫を感じ取らせる。そして、自分の夢の町のイメージをもたせるために、自分が行ってみたい場所を想起させる。

次に、自分が表現した夢の町と友達の夢の町をつなげることに意欲をもたせるために、町と町をつないだ参考作品を見せ、形や色、発想の工夫に気付かせる。そして、自分がかいた夢の町と友達の町をつなぐ部分を、友達と一緒に考えながら表現する場を設定する。その際、自分がかいた夢の町の様子と、友達がかいた夢の町の様子を比較しながら鑑賞し、町と町をつなぐ部分の形や色の工夫を、友達とアイデアを出し合いながら表現することができるようにする。

さらに、終末の鑑賞においては、自分や友達がつくった夢の町に遊びに行く活動を通して、形や色、発想の工夫に気付くことができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、自分や友達の思いやイメージを基に、表現の見通しをもって取り組み、試行錯誤したり、友達と一緒によりよい表現について話し合ったりしながら、自分自身の表現のよさや、新たなイメージをつくり出すことができた喜びを感じることができる。と考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまでの経験を通してほとんどの子どもたちが、パスで絵をかくことが好きである。しかし、「好きではない」と答えた子どもが2名いる。(※1) その理由として、

実態調査 2年ろ組34名 (4月中旬実施)	
1	パスで絵をかくことは好きですか。 好き(32名) 好きではない(2名)※1 (好きではない理由) ・ 手が汚れるから ・ すぐ折れてしまうから
2	友達と一緒に表現することに興味・関心があるか。 はい(30名) いいえ(4名)※2 (好きではない理由) ・ 友達に自分の絵を見せたくないから ・ 難しそうだから
3	行ってみたい夢の町が思い付きますか。 はい(34名) いいえ(0名)※3 ・ おかしの町 ・ ロボットの町 ・ お花の町 ・ 魔法の町 ・ 未来の町 など
4	作品を鑑賞し合うことのよさを感じているか。 感じている(25名) 感じていない(9名)※4 (感じていない理由) ・ 自分の作品を見せるのが恥ずかしいから ・ からかわれたことがあるから
5	パスで人かくときに、表情や動きを工夫してかくことについて(実技)※5 工夫してかくことができる(25名) 工夫してかくことができない(9名)

「手が汚れてしまうから」「すぐ折れてしまうから」ということが挙げられる。つくりたいものはイメージできていても、パスの使い方や課題があり、苦手意識をもっていることが考えられる。そこで、折ったパスによる表現や指で擦った表現のよさに気付かせる必要がある。友達と一緒に表現することについては、4名の子どもが興味・関心がないと答えている。(※2) 理由として、「難しそうだから」「見せたくないから」ということが挙げられる。一緒に表現する楽しさを感じていないことが考えられる。そこで、自分と友達の考えを基に、夢の町と一緒につくる楽しさを感じさせる必要がある。行ってみたい夢の町を発想することについて、全員が思い付くことができた。(※3) さらに豊かに発想することができるように、イメージマップを使ったり、友達とアドバイスを交換し合ったりして、夢の町にいる登場人物の様子や、建物の様子などの細かい部分について考え、表現に生かすようにさせたい。鑑賞活動については、9名の子どもがよさを感じていない。(※4) 理由として、「恥ずかしいから」「からかわれたことがあるから」ということが挙げられる。よさを認められる経験が少なく、自分の表現に自信がないことが原因だと考えられる。そこで、互いの表現のよさを見付けて認め合う喜びを感じさせる必要がある。パスで人かくことについて、9名の子どもが表情や動きを工夫してかくことができなかった。自分の思いやイメージに合わせて、人の表情や動き、夢の町の様子を工夫してかくようにさせたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 「思いをもつ・見通す」段階では、まず、夢の町を表現することに進んで取り組めるようにするために、参考作品を大きなスクリーンに映し出し、形や色などの工夫してあるところを話し合わせる。そして、自分がイメージした夢の町を表現できるように、自分が表したい夢の町のイメージを基に、登場人物や建物など、町にあるものの形や色を工夫できるようにイメージマップをかかせる。
- イ 「思いを表現する」段階では、友達の表現のよさを見付けて認め合うことができるように、友達の表現のよさを互いに伝え合う場を設定する。そして、見付けた互いのよさや互いに発想したことを表現に生かすことができるようにするために、町と町をつなぐ部分には、互いの町にいる登場人物や建物や互いに発想したものがいるようにする。そのために、自分の町と友達の町の形や色を比べさせ、つなぐ部分にはどのような形や色の工夫をすればよいか、話し合いながら表現するようにさせる。また、折ったパスによる表現や指で擦った表現のよさを紹介し、自分の思いに合わせてパスを工夫して使うことができるようにする。
- ウ 「思いを味わう」段階では、友達と交流したことや試行錯誤したことと作品とのつながりを感じることができるようにするために、終末の鑑賞において、紙などでつくった自分を動かしながら、見るポイントの工夫やイメージの高まりを感じさせるとともに、よさを伝え合い、互いのよさを認め合えるようにする。

3 目 標

- (1) 自分が行ってみたい夢の町を楽しく想像し、形や色などを工夫しながら友達と進んで表現することができる。
- (2) ○ 友達と交流しながら、表したい夢の町を想像し、表したい思いやイメージに合わせて形や色を工夫して表現することができる。
 - 互いに作品を鑑賞し合い、夢の町の形や色などの工夫や発想のよさを、互いに伝え合ったり自分の表現に生かしたりすることができる。
- (3) パスやはさみなどの用具を適切に用いながら、表したい夢の町に合った形や色になるように表現することができる。

4 指導計画 (全2時間)

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 行ってみたい夢の町をつなげて表すことについて話し合う。	1	○ 夢の町を表現することへの意欲を高めるために、「どのような町にいてみたいか。」と問い、自由な発想を引き出すとともに、出てきた子どものつぶやきや発言を価値付ける。
	2 題材のめあてについて話し合う。 友だちとつなげて、たのしくて大きなゆめの町をつくろう。		
思いを表現する	3 学習計画を立てる。 まずは、自分でゆめの町をつくらないと、つなげられないな。	1	○ 夢の町をつなげて表現することへの意欲を高めるために、夢の町同士をつなげた参考作品を見せ、町と町をつなぐ部分の形や色の工夫や、表したい思いに気付かせる。その際、つなげることで、友達と交流しながら、より楽しい町をつくることのできることを感じさせ、題材のめあてへと焦点化していく。
	4 自分が行ってみたい夢の町をかく。 (1) 行ってみたい夢の町を考える。 未来の町には、ロボットや空をとぶ車があったら、おもしろいな。		
思いを味わう	(2) 行ってみたい夢の町をかく。	1 (本時 2/2)	○ 題材全体の見通しをもたせるために、学習計画を立てる際に、「どのような順番でどのような活動をすればよいか。」と問い、子ども自身に計画を立てさせる。
	5 友達と夢の町をつなげ、大きな夢の町をつくる。 (1) 町と町をつなぐ部分を考える。 未来の町と動物の町をつなぐ橋の部分には、ロボットとゾウと一緒に遊んでいるといいね。		
思いを味わう	(2) 町と町をつなげ、形や色を工夫して大きな町を表現する。	1 (本時 2/2)	○ 自分が行ってみたい夢の町を具体的に発想させるために、「好きなものは何かな。」と問い、自分の好きなものから行ってみたい夢の町を考えさせたり、イメージマップを書かせ、夢の町にあるものの発想を広げさせたりする。
	6 お互いの作品の発想や表現のよさを認め合う。 友達と話しながらつくと、いろいろな考えが出てきて、楽しい夢の町がつくれそうだな。		
	夢の町の工夫を、友達と一緒に考えたおかげで、楽しくて大きな町が完成したな。		○ パスを工夫して使わせるために、折ったパスの使い方や、擦った表現のよさを紹介する。
			○ 交流しながらつくることに意欲をもたせるために、二つの参考作品を比較させ、町と町をつなぐ部分の色や形の工夫が、交流により生み出されたことに気付かせる。
			○ 交流しながら発想することができるようにするために、二人のイメージを伝え合ったり、二つの町を比較したりして、気付いた色や形の工夫を伝え合いながら表現するようにさせる。
			○ 発想がうまくいかない子どもたちには、二つの町をつなぐ部分を具体的に想像させる発問を行い、二人でアイデアを出し合いながら表現するようにさせる。
			○ 夢の町を表現することへの意欲をさらに高めるために、つなぐ部分の周りを工夫したり、他の友達とのつながりを表現したりしている子どもを紹介し、価値付ける。
			○ 完成した夢の町のよさに気付くことができるようにするために、自分たちの町や他のグループの町を鑑賞する活動を設定し、形や色の工夫や発想のよさに気付けるようにする。

5 本 時 (2 / 2)







(1) 目 標

自分が行ってみたい夢の町を表現し、友達とつなげることに興味をもち、進んで活動に取り組むことを通して、町と町をつなぐ部分や周りを、友達と考えながら表現することができる。

(2) 本時の指導に当たって

導入では、二つの参考作品を比較させ、交流しながら発想するよさについて考え、本時で大切な人やものの形や色といった見るポイントを見出させる。また、クラスで共有できるめあてを立て、活動の見通しをもたせる。展開では、交流したことを作品に生かすことができるように、二つの町をつなぐ部分の工夫を考えさせる。その際、お互いの町の形や色で比較させ、二つの町をつなぐ部分に表現したい形や色を見出させていきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ		
思いをもつ・見通す	 <p>今日は、友だちと絵をつなげて、大きな町をつくりたいな。</p> <p>1 参考作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。</p> <p>【見るポイント】 ○人やものの形 ○色</p> <p>2 学習のめあてについて話し合う。</p> <p>友だちといっしょに考えながら、まちをつなげよう。</p> <p>3 町と町をつなぐ部分を考え、大きな町を表現する。</p>	(分) ↑ 5 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で学習することを意欲的に取り組ませるために、学習計画と本時の活動の位置を確認し、本時では友達とつなげて大きな町をつくることを意識させる。 ○ 互いにアイデアを出し合いながらつくることに意欲をもたせるために、町と町をつなぐ部分に片一方の町の発想しか生かされていない参考作品と、両方の町の発想を生かしている参考作品を比較させ、「話し合いながらつくることは、どんないいことがあるか。」と問い、交流しながら発想するよさに気付かせ、本時のめあてへと焦点化していく。 ○ 発想したことを進んで表現できるように、教室の床に広幅用紙を敷いておき、思う存分に手を働かせてパスで自由に表現させる。 ○ 二つの町の形や色、発想の工夫を比較し、つなぐ部分に生かすようにするために、「二つの町をつなぐ部分には、どのような形や色があれば楽しくなりそうかな。二つの町を比べて考えてみよう。」と問い、ふたつの町を鑑賞しながら交流する場を設定する。 		
	<p>【つなぐ部分を考える】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>イメージ ロボットがいっぱいの町をかいたよ。建物も人もみんなロボットだよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>イメージ 魔法使いがたくさんいる町をかいたよ。ほうきに乗って飛んだり、魔法で遊んだりで</p> </div> </div> <p>← 【見るポイント】色や形 →</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>つなぐ部分には、どんな色の建物があるといいかな。</p> <p>虹色の魔法の建物は明るくて楽しそうだな。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>わたしの町をもっと楽しくするにはどうすればいいかな。</p> <p>ロボットがほうきに乗ってあそんでいたら楽しいな。</p> </div> </div>			↓ 3 2 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な表現方法に気付かせ、自分たちの作品に生かすことができるように、交流したことが生かされている作品をスクリーンに写し、形や色などで工夫しているところを考える場を設定する。 ○ 交流しながら表現する意欲をさらに高めるために、つなぐ部分の周りを交流しながら表現したり、他の友達とのつながりを表現したりしている子どもを紹介し、価値付ける。 ○ 完成した夢の町のよさに気付くことができるようにするために、画用紙でつくった小さい自分を操作しながら、自分たちの町や他のグループの町に遊びに行く活動を設定し、形や色の工夫や発想のよさに気付く、よさを伝え合う場を設定する。
	<p>新たなイメージ 町と町をつなぐ道路には、ロボットがほうきに乗ってとんでいたり、虹色の建物をかこう。</p>  <p>新たなイメージ わたしの町にもロボットがいて、魔法使いと楽しく暮らしているところをかこう。</p> 				
<p>4 町探検をしながら、お互いの作品のよさに気付く、発想のよさを認め合う。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>友達の作品を見たり、一緒に考えたりしたから、楽しくて大きな町ができたな。また友達と考えて何かつくりたいな。</p> 	↓ 3 ↓				